

## 平成22年度徳島県南部地域政策総合会議 計画推進評価部会 会議録 概要

- 1 開催日時  
平成22年6月28日（月）午後2時から午後3時30分
- 2 会場  
南部総合県民局 美波庁舎 301会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員 6名出席（2名欠席）  
委員 小林委員（副部会長）、富沢委員、橋本委員  
専門委員 石田部会長、大下委員、森本委員
  - (2) 県関係  
江本局長、玉置副局長、高瀬局次長、南部総合県民局各部長、延政策調査幹、他
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事  
平成21年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について
  - (3) 閉会
- 5 配付資料
  - 資料1 平成21年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（案）
  - 資料2 平成22年度南部圏域課題解決プラン実施計画
  - 資料3 「平成21年度南部圏域課題解決プラン取り組み状況」リーフレット

### 会議・発言内容

（高瀬局次長）

ただ今から、平成22年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会を開会をいたします。本日の会議はあらかじめ〇〇委員さんと〇〇委員さんが欠席というようなご連絡をいただいておりますが、その他の6名の委員さんにご出席いただいておりますので、本部会設置要領に定めております会議の成立要件を満たしているということを最初に報告を申し上げます。それでは、議事に先立ちまして、南部総合県民局長からみなさまにご挨拶を申し上げます。

（江本局長）

（挨拶）

（高瀬局次長）

それでは各課題につきましてご審議をお願いしたいと思いますが。本会議設置要領では会議の議長は部会長と規定されておりますので、今後の議事進行につきましては石田部会長よろしくお願いたします。

(石田部会長)

みなさんこんにちは。今日は、お暑い中、お忙しい中、委員のみなさまにおかれましてはお集まりいただきましてありがとうございます。一言挨拶をさせていただき、それから議事を進めさせていただきます。この評価部会も今回で3回目になろうかと思えます。今年度が計画の最終の目標年度となりますので、今回は、単に昨年の評価をするだけではなく、最終年度の目標達成に繋がるようなご意見をちょうだいできればと思っております。それでは、よろしく願いいたします。それでは議事を進行して参りたいと思えます。本日の議題の平成21年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)について事務局から説明をお願いいたします。

(延政策調査幹)  
(内容説明)

(石田部会長)

ありがとうございます。それでは、ただ今説明のありました平成21年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)についてのご意見、ご質問、更に南部圏域振興計画への御提言も含めまして、幅広いご意見、忌憚のないご意見をちょうだいできればと思えます。プラン評価ということで事務局案が書かれておりますが、この事務局評価案に対する意見であるとか、事務局の所見等についての意見をお聞かせ願えればと思えます。こういう視点が足りないのではないだろうかとか、こういう事を付け加えた方が良いのではないかと、日頃皆様が実践や経験で学んだことから思うところ考えるところがありましたらお教えてください。

(〇〇委員)

〇〇です。お世話になります。資料1につきまして、昨年、お願いしたとおり帳票を工夫していただいたので見易くなりました。ただ、18年からの評価を参考にしたいので、各年度の欄にでもその年度の評価を入れていただければ更に見易いかと思えます。それでは資料1についてお聞きします。

はじめに、プラン27のU I Jターンによる転入者の受け入れ体制の充実についてですが、評価指数がU I ターン等新規就農者数となっており、人数だけで評価するとA評価になると思うのですが、就農してもすぐに離職される方もおられるので、定着率を評価指数に加えたらと思えます。

次にプラン41の廃校等の地域資産の活用についてですが、利活用方針の決定件数を評価指数にしており、活用方針が決定した施設が3件あったということでA評価となっておりますが、どの様に良い形で移管ができるかということが大切なのであって、移管方針が決まっただけでA評価とするのはどうかと思えます。

(石田部会長)

〇〇委員のご意見につきまして、事務局からご回答いただけますか。

(増野部長)

UターンIターンによる新規就農者の定着率のお話ですが、資料の新規就農者数については、U I Jターンの新規就農者の内、定着された方の人数を記載しております。

(野村次長)

廃校等の地域資産の活用についてですが、資産の利活用方針の決定件数を成果指標としており、宍喰商業、水産高校、日和佐老人ホームの3件の方針が決定したということでA評価としております。しかし、〇〇委員のご指摘のとおり、資産の移管方法や具体的な利活用の内容が大切ですので、町と協力して地域振興のために活用させていきたいと考えております。

(石田部会長)

それでは、成果指標の3件につきまして具体的な利用方針が決まっていれば教えてください。

(野村次長)

水産高校につきましては、美波町に無償貸与した後、地域で利活用していただきながら、将来的には民間等に売却することになっています。他の2件につきましても同じような状況でございます。

(石田部会長)

今の回答につきまして、ご意見はございませんでしょうか。

(〇〇委員)

課題は残っているけれど、成果指標をクリアできたからA評価ということですよ。

(野村次長)

今の成果指標で評価すればA評価となりますが、今後指標設定する場合は見直す必要があるかと考えております。

(石田部会長)

他の委員のご意見もお聞きしたいのですが。

(〇〇委員)

事務局の説明では、3件については、施設の有効活用を望む地元希望により譲渡したという事ではA評価ですが、〇〇委員のご意見のとおり今後の課題が残るのではないかなと思います。成果指標では、3件できているということでAだろうと思います。

(〇〇委員)

譲渡が完了しただけで、まだ課題が残っているのに問題が解決した様になるのはどうかと思います。この様な場合は、どこかに課題等を書き込めないでしょうか。

(石田部会長)

課題が残っているのに成果指標によるとA評価になってしまう場合は、意見を評価案のどこかに付け加えたいというご意見なんです。この評価案のどこかに意見を追記するか、評価部会においてこのような意見があったという事を、南部地域政策総合会議において報告していただくことは可能でしょうか。

(柳本部長)

〇〇委員のご指摘のとおり、成果指標ではAですが、具体的な利用方針はまだ決まっておりません。水産高校にしても、セミナー室の利用と食物実習室をデイサービス関係の給食に利用するという程度のことしか決まっておらず、全体的な部分はまだ決まっておりません。評価部会において、「更なる利活用を図ること」という意見があったということ、南部地域政策総合会議に報告させていただきます。

(〇〇委員)

U I ターンによる転入者の受け入れ体制の充実ということで、新規就農者の受け入れ体制づくりに取り組まれている様ですが、農業をするために帰ってきて住む家から探さなければなりません。また、農業に着手しても6ヵ月は収入がありません。農協でも今年から農業経営を行うことになりました。具体的には、農協が新規の有望な品目や海部郡に適した作物

を試験栽培し、見込みのある作物ができれば新規就農者にも栽培法を教えて、農協は経営を移譲していきます。また、県や市町と協力して新規就農者に対する支援に力をいれていきたいと考えています。

また、寒茶のペットボトルですが、道の駅さんと協力して、室戸の深層海洋水を利用した寒茶のペットボトルを800ケース生産しました。道の駅さんで400ケース、JAグループで200を既に販売しています。200ケースぐらい残っていますが、発注量が少なかった様な感じがします。今年の結果を参考に、来年はもっともっと販売実績を伸ばしていける生産体制を造りたいと考えています。

(石田部会長)

UIJターンの問題に関して、新規就農者支援は、就農支援だけでなく住宅支援も必要であり、JAも県、町と協力してがんばっていききたいという御意見ですがいかがでしょうか。

(増野部長)

JAさんから、積極的にUIJターンに対して支援をいただけるという御意見をいただきました。新規就農者数ですが、21年度末までで累計42名おられますが、このうちIターンの方が6名と、まだUターンの方が多ようです。また、Uターンされた方にはリタイヤされたり離職されて帰ってきた方が多ようです。

県としましても技術的な支援はもとより、町の移住交流センターを活用した住宅支援や、資金面の支援など、JAさんや町と協力してできるだけ多くの方が定着していただけるように努力していききたいと考えております。

(柳本部長)

圏域内への定住交流人口の増加を図るため、南部地域協働センターに移住交流にぎわいづくりのプロジェクトチームを設置し、空き家や提供農地などの物件情報の発信や、農業指導を行うなど、いろいろな方面で新規就農者を支援していききたいと考えておりますので、JAさんにおかれましてもご協力をよろしくお願いいたします。

(石田部会長)

成果指標の達成だけで終わるのでなく、これからその中身をより一層充実させていくことが大切ですよという委員のご意見かと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(〇〇委員)

IターンUターンの事ですが、林業でもIターンUターンをされた方がおられますが、なかなか長年定着してもらえません。

(増野部長)

林業についておられる方については、森林組合に勤められている方が中心になってくると思われますが、そういった方に対しましては機械の研修を行うなどの支援を行っております。なお、林業への新規就業者数や移住されてからの年数につきましては、手元に具体的な数字を持っておりませんのでこの場でお答えすることはできません。

(〇〇委員)

Iターンで山に来られた方を何人か知っていますが、多くの方が家庭の事情で実家へ帰られたと聞いております。なかなか定着するのは難しいのでしょうか。

(増野部長)

同じ答えになってしまいますが、今手元に数字を持っておりませんので、確認をさせていただいてから再度お返事をさせていただきたいと思っております。

(〇〇委員)

よろしくお願いします。

次に、高性能機械の導入に関してですが、今年に高性能機械を2セット導入するということですが、これで合計何セットが南部圏域に導入されたのでしょうか。

(延調査幹)

21年度までに10セット、更に22年度に2セットを導入する予定で、合計12セットが南部圏域に導入されることとなります。

(〇〇委員)

資料1によると、搬出間伐量が20年度から21年度にかけて38,526m<sup>3</sup>から31,739m<sup>3</sup>に減少していますが、機械導入数が増えているのに間伐量が減っているのはなぜでしょうか。

(増野部長)

これは、景気の悪化により木材価格が7千円/m<sup>3</sup>と低迷していることが大きな要因だと考えられます。機械化により低コスト化を図っているところですが、それ以上に木材価格が下がってしまい、コストに見合う価格で販売できなかった影響で、機械を導入したにもかかわらず間伐搬出量が減少したと考えられます。

(〇〇委員)

家を建てるときに木材を使っただけなら良いのですが、いろいろな状況でそうもいかいようですね。それと前にもお話したのですが、機械による効率化により搬出コストは下がるのですが、機械を使用することにより木を痛めてしまい商品価値が下がってしまうという現状があります。合理化によりコストを下げるだけでなく、いろいろな方の意見を聞きながら包括的に考えていく必要があるのではないのでしょうか。そして、次世代に自慢できる山造りをしてほしいと思います。

それと、今年からはじまりました農業の所得保障について、プラスの面とマイナスの面をお聞かせ願えたらと思います。

最後に遊休農地の活用についてですが、土地を貸す人も耕作する人も高齢化が進んでおります。このような状況に対する施策をお願いしたいと思うのですがいかがでしょうか。

(増野部長)

まず、機械による間伐が木を痛めるという話についてですが、間伐を行うにあたりまして一般的に46年生以上の間伐については、抜き切りという出来るだけ木を痛めない方法で行っています。また、それ以下の若い木につきましては、機械による間伐をすすめており、若干木を痛めてしまう場合もあります。これにつきましては、それぞれ山に応じた間伐を進めていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それと農業の所得保障制度についてですが、これは販売価格が生産費を下回った場合に、その差額を補填することで生産能力を確保するという制度で、飼料米など、お米を作りながら転作をしていくことができるという制度です。家畜が食べる飼料はほとんどが輸入されており、飼料米を生産することにより、自給率向上に貢献できるというメリットもあります。

最後に遊休農地の活用についてですが、これは土地を貸す方も耕作する方も高齢化が進んでいるなか、耕作面積の維持にどの様に取り組んでいくのかというご質問だったかと思いますが、確かに高齢化は進んでおりますが、取り組み面積はほぼ変わらない状態です。平成22年から3期目の中山間対策に取り組むことになっておりますが、この施策がある事によって、現状を維持できているという状況でございます。

(〇〇委員)

U I J ターンに関する評価をU I J ターンで就農された方の人数で行っていますが、人数だけじゃなく、こちらにこられた方がどれだけ生産や販売を行い、いくら納税し、何人子供を産んだかという様な数字で評価してはどうでしょうか。

次に廃校等の地域資産の活用についてですが、水産高校のグラウンドをキャンピングカーなどでこられた方に開放してはいかがでしょうか。そこを拠点にして自転車などで町内を廻っていただいたら交流人口も増えるのではないかと思います。それと、活動指標のところに短期的利用が2件とありますが、これは具体的にどのような事でしょうか。

(増野部長)

U I J ターンによる新規就農者数が21年度で42名となっていますが、そのうちUターンの方が36名で、実家の農業を嗣がれた方が多いかと思えます。また、Iターンされた方は6名おられまして、うち2名が県外からの方ですが、お米、ユズ、ハウスイチゴなどを生産されたり、養鶏をされております。県としましても、できるだけ多くの方に定着していただけるように、技術的な支援等を行っていきたく思います。

(〇〇委員)

課題解決プラン実施結果及び評価の中に、成果だけでなく失敗談も書いていただけたら参考になるかと思えます。

(石田部会長)

これはすべてのプランについての御意見かと思うのですが、事務局いかがでしょうか。

(柳本部長)

今後、検討させていただきます。

(石田部会長)

よろしく申し上げます。

(野村次長)

廃校等地域資産の活用につきまして、短期的利用2件とは何かというご質問がありました。これは水産高校の校舎の一部を、高齢者福祉の配食サービスに利用していただくという事と、グラウンドを売却までの間、美波町に無償貸与するという事が決まったということです。

次に水産高校のグラウンドをキャンピングカー等に開放できないかという御意見がございましたが、水産高校のグラウンドにつきましては、既に給排水や照明等の施設がありませんので、設備投資や管理面の問題を考慮して利活用の検討を行う必要があります。また南部圏域内には、まぜのおかオートキャンプ場、恵比須浜キャンプ場、鷺敷ライン林間キャンプ場といった立派な施設やおいしい食材が安く食べられる民宿などもございますので、こういった施設に泊まっていただけるようにPRをしていきたいと考えております。

(〇〇委員)

地域公共交通の確保についてですが、南部の関係市町は連携計画を策定し、それぞれの地域で実施できる施策から進めておりますが、南部の関係全市町が取り組んだということは大変評価できると思えます。また、木頭から徳島、阿南までのバス路線は、交通弱者にとっては命の路線とも言える重要なものですが、毎年様に路線撤退の話が出ております。この問題に関しまして、県全体の公共交通に対する方向性をお示してください。

次に、地域医療の充実についてですが、施策や個別事業内容をみると会議等で大変努力されており、この点は評価できると思うのですが、プラン評価は毎年C評価となっております。そのあたりの評価の基準をお示してください。

最後に、台風等による豪雨災害への取り組みについてですが、那賀町では平成16年に未曾有の大災害により甚大な被害を受けております。この被災箇所については早急な復旧を願うところですが、那賀町のような山間部では豪雨等による山腹崩壊などにより集落が孤立することが危惧されます。この事に関する県の取り組みについてお伺いしたいと思います。

(野村次長)

公共交通についてですが、南部県民局では地域のバスや阿佐海岸鉄道などの地域の公共交通機関について、それぞれの市町でたちあげた協議会等に参加させていただき、いろいろと議論をさせていただいております。また県全体としては、交通戦略課に事務局をおき議論を重ねておりますが、その内容等につきましては折りをみて説明させていただけたらと思っております。また、〇〇委員からバス路線廃止の話がありましたが、今年度、南部圏域につきましては影響ないと聞いております。

(石田部会長)

地域医療についてですが、成果指標の目標値と実績値が同じなので、プラン評価はA評価のように思えるのに事務局案ではC評価になっている理由もあわせて説明いただければと思います。

(柿田部長)

地域医療の充実につきましては、ご指摘がございましたとおり平成19年度からC評価が続いております。これは成果指標のひとつである糖尿病標準化死亡比によるもので、本県におきましては、糖尿病死亡率が18年度までで14年連続最下位となっております。19年度に一度脱出しましたが、20年度に再び全国最下位となり、21年度も最下位のままでございます。これにつきましては、対策は打っているのですが成果が現れていないということで、C評価にならざるを得ない状況です。

また、もう一つの成果指標であります災害医療体制の強化につきましては、南部防災対策連絡会議やマニュアル実施訓練などを実施して参りましたが、成果を会議等の回数でしか数字で表せない事から強化という表現になっております。

また、成果指標の表現につきましては、「災害医療体制の強化」の実績は強化で良いかと思いますが、「糖尿病標準化死亡比」の実績は数字的に改善がされておられませんので、書き方を検討したいと思います。

なお、地域医療の充実につきましては、平成21年度に地域医療再生計画を策定しまして、平成25年度までに県全体で50億円を使って様々な取り組みを行うこととしており、4月からは寄附講座により内科医3名、産科医3名が派遣されるなど、徐々に改善、充実してきておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

(石田部会長)

成果指標の表現につきましては、プラン評価がCであるというところに繋がるような書き方を検討願います。

ご質問が、もう1点あったかと思うのですが。

(中内部長)

すいません、最後の質問をもう一度お願いします。

(〇〇委員)

台風等による豪雨災害への取り組みにつきまして、山間部における山腹崩壊等に対する県の取り組みをお伺いしたいと思います。

(中内部長)

南部圏域では平成16年度に未曾有の災害がございましたが、この被災箇所につきましては記載のとおり復旧に取り組んでおるところです。また、国道195号や193号などの緊急輸送路につきましては、山腹崩壊や落石事故に対する危険箇所点検を行っており、より危険な箇所から対策を取っていております。また、仮に道路等が被災しても、集落が孤立したり通行が遮断される事が無いようにバイパスの整備などを進めております。

(石田部会長)

それでは、欠席されている〇〇委員からの意見を事務局から報告してください。

(延調査幹) 〇〇委員の意見を事務局が代読

県南の主産業である農林水産業においては、高齢化、過疎化、後継者不足が大きな問題になっています。また、資金繰りが厳しい事に加え、販売価格の低迷などの影響で生産すればするほど赤字になる状況です。農林水産業を主業として生活が成り立つように、安定した生産や収入に繋がるような施策をお願いしたいと思います。

また、安全・安心して暮らせる地域づくりは、私たちの生活において最も大切な事であり、特に地域医療の充実に対しましては最大の努力と取り組みをお願いします。

最後に道路整備に関してですが、道路は日常生活だけでなく災害時や緊急時には無くてはならない役割を持っておりますので、高速道路、地域高規格道路の整備以上に主要幹線道路の整備を進めていただきたいと思います。

(石田部会長)

事務局から回答をお願いします。

(増野部長)

デフレの影響で農産物価格が低迷していることと、生産資材等が高騰していることから、農業者の収益が非常に厳しい状況にあります。その対策として、キュウリ施設の保温力向上のための循環扇や3重被覆、ハウスマカンやスタチ栽培へのOPフィルムの導入などに取り組んでおります。また、ブランド産地強化計画で定めた27品目につきまして、ブランド確立や生産だけでなく、販売も含めて支援に取り組んでおります。

また、かいふサポーターと連携して地産地消を進める事により運送費をおさえ、農家の手取りが大きくなるような取り組みを進めております。

(柿田部長)

地域医療の充実につきまして、徳島県では徳島県医療再生計画を策定しております。具体的な施策としましては、徳島県海部病院における分娩再開を目指し、産婦人科や地域医療を担う幅広い診療能力を持つ医師の養成を目的とする寄附講座を設置しております。また、現在防災ヘリをドクターヘリとして活用しておりますが、本格的なドクターヘリの導入を目指すよう検討を始めております。

以上のような取り組みにより、地域医療の崩壊を食い止め、県民の皆様が安心して暮らせるように全力をつくして参りたいと思っております。

(石田部会長)

まだまだ意見もおありかと思いますが、そろそろ時間がまいりました。最後にこれだけというご意見がございましたらお願いします。無いようですね。

それでは、意見交換を終了したいと思います。

委員の皆様からいろいろのご意見、ご質問をいただきましたが、本日、県から提出のありました「平成21年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価」(案)を当部会の評価としてよろしいでしょうか。

(異議無し)

はい、ありがとうございます。それでは、この事務局案を当部会の評価といたします。南部総合県民局には、委員の皆様からいただいた御意見や御提言を、今後の徳島県南部圏域振興計画の策定に反映していただくようお願いいたします。特に、今日の会議でご意見やご質問が集中した項目につきましては、特に関心が深いという事であり、委員の皆様が住民として施策の効果を実感したいとの思いがあるのだと思います。この事を次に繋げていってほしいと思います。

本日は、委員の皆様には幅広い御意見、御提言をいただきありがとうございました。なお、最後に当部会の会議録に関しましてお諮りしたいことがございますので、事務局から説明をお願いいたします。

(延調査幹)

2点、御協議いただければと思います。1点目は、計画推進評価部会の会議録の公表内容につきましては、石田部会長と協議の上、公表させていただきたいと思います。2点目は、計画推進評価部会の評価結果及びご意見につきましては、7月28日に開催されます南部地域政策総合会議において、部会長にご報告をさせていただきたいと思います。以上2点につきまして御協議いただきたいと思います。

(石田部会長)

以上2点、事務局から説明がありましたが、本日の会議録の公表内容については、部会長である私の判断により公表することとしてよろしいでしょうか。

(異議無し)

ありがとうございます。それでは、異議も無いようですので部会長の判断により公表させていただきます。また、南部地域政策総合会議への報告についても、本日の評価結果等について計画推進評価部会の意見として事務局と私の方でまとめた上で、報告させていただくことでよろしいでしょうか。

(異議無し)

それでは、そのようにさせていただきます。以上をもちまして本日の議事を終わらせていただきます。